

2011 年度 修士論文要旨

文字表示の同調がソフトウェアの印象形成に与える影響に関する研究

関西学院大学大学院理工学研究科
情報科学専攻 北村研究室 尾碕 圭介

人間同士のインタラクションにおいては、円滑なインタラクションを行う二者間に、ノンバーバル情報の同調が生じることが知られている。また、人間同士のインタラクションにおいて、ノンバーバル情報の同調は好ましい対人印象を形成することが知られている。ノンバーバル情報の同調は、人間とコンピュータのインタラクションにおいても確認されている。しかし、人間とコンピュータの文字インタラクションにおいて、ノンバーバル情報の同調がソフトウェアの印象形成に与える影響については調べられていない。ソフトウェアの文字表示の同調が印象形成に与える影響を解明することができれば、人間とコンピュータの文字インタラクションの設計に役立つと考えられる。このような考えから、本研究ではソフトウェアの文字表示の同調が印象形成に与える影響を調べた。

実験では同調表示タイピングソフトの印象評価を行った。行うタスクは同調が協調的に作用するタスク、非協調的に作用するタスクの **2** 種類である。表示モードは一括モード、等速モード、同調モードの **3** 種類である。一括モードは、通常のタイピングソフトと同様に、交替潜時を一定に、英単語を一度に表示する。等速モードは、交替潜時を一定に、英単語を一文字ずつ等速に表示する。同調モードは、交替潜時をユーザの交替潜時に同調させ、英単語の文字表示速度をユーザのタイプ速度に同調させ表示する。実験の結果、一括モードと比較し等速モードと同調モードは、「感情を持つ」、「丁寧な」という印象が形成され、さらに同調モードは「あたたかい」、「生命がある」、「人間らしい」という印象が形成されることが示された。また、同調が協調的に作用するタスクを行う場合、一括モードと比較し等速モードと同調モードは、ソフトウェアに「親切的な」、「感じの良い」という印象が形成され、さらに同調モードは「安心な」、「自律的な」という印象が形成されることが示された。

以上より、ソフトウェアのノンバーバル情報の同調は人間らしい印象を形成するという結果が得られた。また、ソフトウェアのノンバーバル情報の同調は、同調が協調的に作用するタスクを行う場合に好ましい印象を形成するという結果が得られた。